

# ブナ林



ブナは日本の冷温帯落葉樹林を代表する樹木で、近畿地方では標高800m以上の場所に生育し、沖縄を除く全国に分布します。ブナ林の特徴は落ち葉によってつくられたやわらかい土が水を蓄え、湿った林床環境が保たれていることで、「緑のダム」とも呼ばれます。

いずみかつらぎさん

## 和泉葛城山のブナ林（岸和田市、貝塚市）

ブナの本州分布域の南限に近く、比較的標高の低い場所に天然のまま残っているブナ林で、国の天然記念物にも指定されています。大阪府側の山麓部の5つの集落の共有財産として、雨の神である「八大竜王社」が祭られている山頂の高麗（たかおがみ）神社とともに、大切に守られてきました。



## ブナ林の種の多様性

和泉葛城山には、ブナ林の特徴である湿った林床環境を好む陸産貝類のオオギセル（府絶滅危惧Ⅰ類）や、ブナの朽木に産卵し、成虫がブナの新芽を食べるトウカイコリクワガタ（府準絶滅危惧）など、ブナ林と関わりの深い生物が生息しています。

## ブナ林に迫る危機 ▶6ページ 第1の危機 ▶7ページ 第4の危機

ブナ林の主な減少要因として、冬季の乾燥、夏季の高温などが挙げられます。和泉葛城山では大木の枯死が顕著な一方でそれに見合う若木の生育がみられないこともあり、ブナ林周辺地域において、苗木の植栽などの保全活動が行われています。



←オオギセル  
府絶滅危惧Ⅰ類。  
湿った林床環境を好む  
巻貝。



←トウカイコリクワガタ  
府準絶滅危惧。  
大きさは約10mmほどと小  
さいがクワガタの仲間。

ツキヨタケ→  
府準絶滅危惧。  
ブナの枯れ木に生え  
る。暗闇で光ること  
が名前の由来。猛毒  
をもつ。



ニホンヒキガエル→  
府絶滅危惧Ⅱ類。  
近畿以西に生息する。  
大きさ約15cmほど  
になる大型のカエル。



◆大阪府内のブナ林：和泉葛城山（岸和田市、貝塚市）、妙見山（能勢町）、金剛山（千早赤阪村）

◆観察会・ボランティア活動のお問い合わせ先

「きしわだ自然資料館」岸和田市堺町6-5 <<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>>

「貝塚市立自然遊学館」貝塚市二色3-26-1 <<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>>

「公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会」大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルITM棟11F西 <<http://www.ogtrust.jp/>>



# 雑木林

雑木林は、薪や炭、肥料を得るために人が定期的に管理していた林のことで、コナラやクヌギなどの落葉広葉樹で構成されます。定期的手入れされることにより常に若い枝が生え、林床が明るく保たれていることが雑木林の環境の特徴です。

## みくさやま 三草山（能勢町）

三草山にはかつて入会地\*6として利用されてきた雑木林があります。現在は、生活に利用するためではなく、ミドリシジミ類というチョウの重要な生息地を保全するため、間伐や下草刈りなどの維持管理作業が行われています。



## 雑木林の種の多様性

三草山は「ゼフィルスゼフィルスの森」と呼ばれています。ゼフィルスはミドリシジミ類の総称で、三草山の生物多様性を象徴する生物です。とくに幼虫がナラガシワの葉を食べるヒロオビミドリシジミ（府絶滅危惧Ⅰ類）の府内唯一の生息場所であり、日本の分布域の東限となっています。三草山には、ゼフィルス類10種をはじめ、60種を超えるチョウが生息しています。

## 雑木林に迫る危機 ▶ 6ページ 第2の危機

かつて薪や炭などを得る場所として利用され、環境が維持されてきた雑木林は、石炭・石油燃料の普及や人間のライフスタイルの変化に伴い利用価値が下がり、管理が放棄されてしまいました。管理が放棄されると獣害\*7を引き起こすシカやイノシシの個体数が増加したり林の中が暗くなるなど環境が変化し、従来の雑木林の環境を好む生物の減少につながります。

生物多様性に関する教育・指導の取り組み



↑ヒロオビミドリシジミ  
府絶滅危惧Ⅰ類。オスは光のあたり方によって輝きが変わる美しい羽をもつ。



←ナラガシワ  
ブナ科の樹木。  
ヒロオビミドリシジミの幼虫はナラガシワを食べて育つ。



ミズイロオナガシジミ→  
後翅の後端から尾のように長い尾状突起が出ているのが特徴。

◆大阪府内の雑木林：三草山（能勢町）、穂谷・尊延寺（枚方市）など府内各地

◆観察会・ボランティア活動のお問い合わせ先

「公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会」大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルITM棟11F西 <<http://www.ogtrust.jp/>>

# 水田



稲を育てる場所である水田は、生物の生息場所としても重要な役割を果たしています。稲を育てる時期に田を耕し、水を入れ、収穫後は水を落とすことを繰り返すのが水田地帯の環境の特徴です。

## 能勢町の棚田・高槻市南部の水田群

能勢町の棚田は「日本の棚田百選」にも選ばれており、昔ながらの風景を目にすることができます。また、高槻市南部には平地の水田群が残されています。



## 水田の種の多様性

能勢町の山間部に発達した棚田にはニホンアカガエル（府絶滅危惧Ⅱ類）などが、平地水田にはニホンアマガエルやアキアカネ（府準絶滅危惧）、ケリ（府準絶滅危惧）が生息しています。水田は、かつて後背湿地\*8を利用していたと考えられるミナミメダカ（府絶滅危惧Ⅱ類）やアキアカネ（府準絶滅危惧）のヤゴなどの重要な生息環境となっています。

## 水田に迫る危機 ▶ 6ページ 第1の危機・第2の危機

米の生産性向上のためのほ場整備\*9や、宅地化などの開発により水田がもつ生物の生息場所としての機能は失われつつあります。また、米の消費量の減少や農家の高齢化に伴う耕作放棄も水田地帯の生物多様性を衰退させる要因となっています。



←ニホンアカガエル  
府絶滅危惧Ⅱ類。  
1～3月にかけて水田に卵を産む。



←ミナミメダカ  
府絶滅危惧Ⅱ類。  
童謡などでうたわれる魚。水の流れの緩やかな場所にすむ。

ケリ→  
府準絶滅危惧。  
水田や畦の地面に  
巣を作り、子育て  
をする。



アキアカネ→  
府準絶滅危惧。  
水田に卵を産み、  
羽化した個体は山  
地に移動し、成長  
する。



◆大阪府内の水田：能勢町の棚田、太子町・河南町の棚田群、高槻市南部の水田群



# ため池

ため池は、稲をはじめとした農作物を作るために必要な水を蓄えておく池です。大阪には約11,000個のため池があります。

## 八尾のため池群・泉州のため池群

八尾の生駒山麓地域や泉州は府内でも高い密度でため池が分布している場所です。農業用の目的でつくられたため池ですが、カワチブナ\*<sup>10</sup>やタモロコの養魚場としても利用されています。



## ため池の種の多様性

ため池は、流れのない環境を好むナニワトンボ（府絶滅危惧Ⅱ類）などの水生昆虫や、オニバス（府絶滅危惧Ⅱ類）などの水生植物の重要な生息環境となっています。また、八尾市のため池は全国的にも生息地が限られているニッポンバラタナゴ（府絶滅危惧Ⅰ類）が生息しており、保全活動が行われています。

## ため池に迫る危機 ▶ 6ページ 第1の危機・第2の危機 ▶ 7ページ 第3の危機

近年では利用されなくなったため池が増え、池干し\*<sup>11</sup>といった管理が行われなくなったり、埋め立てられたり、残されたため池も防災上の観点から護岸化が進められています。その結果、ため池の生物の生息地としての機能は失われつつあります。また、オオクチバスやブルーギルといった外来種の移入もため池の水生生物の生息を脅かしています。

生物多様性に関する教育・指導の取り組み



オス

←ニッポンバラタナゴ  
府絶滅危惧Ⅰ類。  
淡水二枚貝のドブガイ類に卵を産む。生息地であるため池の減少だけでなく、外来生物であるタイリクバラタナゴとの交雑によっても減少している。



メス



←ナニワトンボ  
府絶滅危惧Ⅱ類。  
大阪の“なにわ”の名前を冠するトンボ。

オニバス→  
府絶滅危惧Ⅱ類。  
葉の大きさは2mを超えることもある。  
鮮やかな赤紫色の花が咲く。



花

◆大阪府内のため池：八尾ため池群（八尾市、東大阪市）、泉州ため池群（和泉市、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、泉南市）、堺東部ため池群（堺市、松原市、羽曳野市、大阪狭山市）、阪南市など府内各地

# 湿地（貧栄養湿地）



湿地は定義が広く\*12、その成立条件などによって様々な環境を示します。ここでは、湧水によって水が供給される貧栄養湿地を紹介します。

## じおう 地黄湿地（能勢町） ・ しのだやま 信太山湿地（和泉市）

大阪の貧栄養湿地はこの2カ所です。どちらも湧水湿地であり、湿地特有の生物の重要な生息場所となっています。



### 湿地の種の多様性

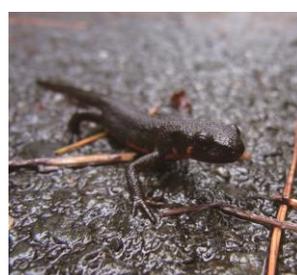
湿地に生える植物を湿生植物とも言います。地黄湿地にはサギソウ（府絶滅危惧Ⅱ類）やトキソウ（府絶滅危惧Ⅰ類）が生育し、花季には美しい花を咲かせます。また、地黄湿地にはアカハライモリ（府準絶滅危惧）、信太山湿地にはカスミサンショウウオ（府絶滅危惧Ⅰ類）などが生息しており、両生類にとっても重要な生息場所となっています。

### 湿地に迫る危機 ▶ 6ページ 第1の危機・第2の危機 ▶ 7ページ 第3の危機

湿地の生態系は、遷移が進んだことによる陸地化や乾燥化、人による生物の盗掘などの影響により崩壊の危機にあります。湿地の湿潤な環境が保たれるためには、湿地そのものだけでなく、水を集め、湿地環境を維持する役割を果たす周囲の山林や水田を保全する必要があります。



←サギソウ  
府絶滅危惧Ⅱ類。  
鳥のサギの羽の色のよ  
うな白い花を咲かせる。



←アカハライモリ  
府準絶滅危惧。  
名前の通りお腹が赤いこ  
とが特徴。

トキソウ→  
府絶滅危惧Ⅰ類。  
鳥のトキの羽の色のよ  
うな薄い桃色がかった  
朱鷲色の花を咲かせる。



カスミサンショウウオ→  
府絶滅危惧Ⅰ類。  
西日本に生息する。体長  
10cmほどのサンショウウ  
オの仲間。



◆大阪府内の貧栄養湿地：地黄湿地（能勢町）、信太山湿地（和泉市）

◆観察会・ボランティア活動のお問い合わせ先

「公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会」大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルITM棟11F西 <<http://www.ogtrust.jp/>>